

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第二回 建築・インテリア系教育課程編成委員会
開 催 日 時	平成 26 年 11 月 28 日 (金) 15 時 30 分～17 時 30 分
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール、11 階 1101 教室
参 加 者	<p>外部委員：5 名 内部委員・学内関係者：4 名</p> <p>(順不同・敬称略、役職は委員名簿参照)</p> <p><外部委員：6 名> 大塚雄二 (社団法人建築家協会 大塚雄二都市建築設計事務所) 霜野隆 (インテリアプランナー協会会長 株式会社レスト マムハウス事業部部长) 樋口修 (東京商工会議所中野支部/株式会社ヒグチ設計) 北川辰雄 (清水建設株式会社) 中山聡 (前田建設工業株式会社)</p> <p><内部委員：4 名> 三上孝明 (学校法人小山学園 専門学校東京テクニカルカレッジ 校長) 白井雅哲 (同 企画部部长兼インテリア科 科長) 今野祐二 (同 建築科科長、議長) 鈴木昇 (同 建築科夜間(建築士専科)科長、書記)</p> <p><欠席者：2 名> 中村勉 (東京建築士会会長/株式会社中村勉総合計画事務所) 宮脇伸歩 (株式会社 LIXIL)</p>
会 議 録	<p><第一部 系別分科会> 15:30～16:00 B1F テラホール</p> <p>1. 学園側関係者挨拶 専門学校東京テクニカルカレッジ校長 三上孝明 2. 委員のご紹介 3. 前回会議 (合同会議) 議事録確認 4. 前回の意見交換と回答</p> <p>■企業連携による SD、FD について、次の 2 点の提案があった。</p> <p>①清水建設主催の外部・一般向け「シミズ・オープン・アカデミー」へ参加してはどうか。技術研究所の研究者の方が講師をされ、耐震に関する先端技術などについて、既に 2 万人の方が受講している。(北川様)</p> <p>②中野駅周辺の設計事務所の方 80 人ほどのグループが、東中野の駅周辺の再開発について話し合っている。学校の近隣のことであり、その方たちの話を聞くのはどうか。(樋口様)</p> <p>学校側の回答 「シミズ・オープン・アカデミー」については既に学生は利用させていただいている。当校は施設的な不足があるので、一般向けのセミナーとして利用させていただきたい。(三上)</p> <p>①、②以外について、現状の教員研修について説明。現在、建築科教員で BIM 講習会などの単発の講習会に参加している。また、建築系教員(野上、高山を中心)で AutoCAD の教科書の改訂など行いながら、CAD 技術体系を整理している。(白井)</p> <p>■職業訓練給付金と資格取得について</p> <p>①職業訓練給付金については独占資格で申請し建築科夜間は通っている。夜間課程は建築科夜間(建築士専科)と名前を変えている。卒業設計も続けたいが、2 級建築士試験合格を目指し特化していきたい。建築科については、手書き製図にも力をいれたい。カリキュラムも変更を考えている。建築監督科も含めて、カリキュラムの特徴を出していきたい。(三上)</p> <p>②インテリアプランナーの前段階であるプレインテリプランナーの資格が作られる予定になっている。また、インテリアコーディネーターは昨年から 2 科目から 1 科目に変わった。学校のカリキュラムの関係からもプレインテリプランナー試験も今後考えていきたい。(白井)</p>

■建築監督科について

建築監督科のカリキュラムについて、現在進行中の作品制作作業を中心に説明させていただいた。施工図、模型、プレゼンテーションも含め卒業判定を行っている。意匠、構造、設備担当の先生を配置しているが、就職決定後の作品進捗は個人差が出ている。この点を修正するのが今後の課題。卒業制作発表会には企業の方にも参加いただき、卒業判定を行いたいと考えている。(三上)

企業側から

①監督科は現場監督を育成していく科と認識している。清水建設の現状では、分業化が進みすぎて図面もアウトソーシングしており、現場では図面を描かなくなった。実務的な複雑さ、社会的な要求に目を向けすぎていて、図面を描いて作る、という現場の基本作業ができていない。監督科でスケッチや図面、施工図を描いていることは将来の現場での仕事に大いに役に立つと考えている。(北川様)

②監督科でも図面を描くことは基本であるが、設計から施工図までやるのはボリュームが多いのではないかと。4年次では建築科の卒業設計を引き継ぎ、積算や施工図を描くのはどうか。(大塚様)

③また建設マインドはどう養うのか。(中山様)

学校側の回答

①監督科でも設計課題と施工図作成、積算までも行う予定である。成果については不十分なところも感じている。他の学生が書いた図面を読めるようになることは重要であるが、学生どうしの連携は難しいのではないかと。(三上)

②3年次までに作った自分の作品をベースに4年次の作業を行えばよいのではないかと。(白井)

③建設マインドについては、本年度全学で取り組んでいるRJPの作業を通じて、専門性の違う学生同志の会話や作業の中で「協業」の精神を養っている。(三上)

作業の流れは決まっていないので、手探りで進めているため先は見えないが、統括委員会をお越し、科、地域、企業を超えるプロジェクトとしたい。また情報発信の場、あるいはどこにもない当校独自のプロジェクト、カフェにしたいと考えている。完成後は地域に開放することも考えている。既に16週間にわたりグループディスカッションをしている。現在、企業面接でもグループワークを重視されているので、RJP活動は就職活動にも役立つと思う。(白井)

企業側から

建設マインドを育てるには、RJPは有効なのではないかと。一担当、一部署の方が次第に全体を見ていくことになるのは、お互いの役割を理解する上でも重要だと考える。就職後、職場で「長」の立場になることを目標に働くことを考えるとRJPは役立つと考える。科による風土の違いを理解することも極めて重要。(中山様)(北川様)

■学生募集について

建築監督科の取り組みも含め、専門学校での優位性については一般の方々への認知度が高いとは言えない。監督科の第一期生(現4年生)は上場企業に就職内定しているが、この点のアピールも必要。建設業全体としては現在求人数も多いが、既に人材不足が続いており、先週はハローワークの方から人材不足についてのヒアリングもあった。職人さん、監督さんも少なく、建設業の将来に不安を感じる。(三上)

企業の方から

①3建築業界に対し「3K」のイメージが払拭できていない。(北川様)

②監督科のカリキュラムは内容が濃いため、個人差が出るのではないかと。大塚先生からあったように、他の人の作品を引き継ぐこともいいのではないかと。

■募集を上げるためのカリキュラム開発について

- ①女性の学び直しが言われている。男性についても考えるべきではないか。(霜野様)
- ②2020年までは求人は多いと思うが、その後はどうなるのか。国交省は中古市場の活性化を考えているのではないか。現状は法規制があるが、今後は中古市場が増えると考ええる。住宅はすでに多数余っている。それらを開発することを考える必要がある。リフォーム、リノベーションを考えたカリキュラム開発もありうるのではないか。(大塚様)
- ③清水建設では女性の監督は増えているが、受け入れ態勢が揃えきれていない。ユニフォーム、安全帯が重たい、ヘルメットなど。(北川様)

学校側の回答

- ①人材を育てるカリキュラムは作成できるが、入学者が減っている現状がある。大学との差別化が重要。大学もいろいろな取り組みをしている。専門学校はまだまだ努力が必要。平成29年度には設備、住宅などのコースを考えたい。(三上)

以上